

第三回俳句賞「5」奨励賞

鯉呼吸

洛南高等学校

仏像の裏にも顔や冬ぬくし
まだ草の匂ひを纏ふ枯蝸螂
風呂吹の湯気の二つに割られけり
理不尽に布を被せて炬燵とす
早退の日は南天の実のゆたか
引き波は遠くへ行けず百合鷗
蝶々や海の向かうの震源地
軽トラは春の堤に見え隠れ
知恵の輪に閉ぢこめられて春の月
春愁のホットケーキの気泡かな
風信子呼び鈴の鳴る斜向かい
飛魚のとび出し波の崩れけり
味噌汁をひと回しするカーネーション
くらくらとゆるる風鈴朝来る
暗号を解けば夏蝶群がりぬ
風薫るかつて象牙を売る港
見下ろして掬ふ金魚の瞳かな
人間のやうに寝る犬夏の月
秋めくや土囊引き摺りひきずられ
鐘楼の微かに揺れて子規忌かな
君の知らぬわたくしのみて星流る
虫籠や階は音昇る場所
どの星の産声ならむ蚯蚓鳴く
すれ違ふリフトは無人霧襖
稲刈りの父をバス停から眺む